

## 第1部 文明と地域世界の形成

### 2 南アジア世界・東南アジア世界の形成

#### 2 ヒンドゥー国家と社会の展開 (教科書 P. 42~44)

##### ① グプタ朝による再統一 [p. 42]

[ ] (320 ごろ~550 ごろ)

- ・ 4 世紀前半 北インドを再統一
- ・ [ ] のとき…最盛期
- ・ ガンジス川流域：州県制による直轄支配  
周辺部：諸侯に土地の支配を認める分権制
- ・ 5 世紀後半～ エフタル族の侵入などにより衰退

##### ② 古典文化の成熟 [p. 42]

[ ] 文学

- ・ チャンドラグプタ 2 世の保護のもとで開花
- ・ カリダーサ (『シャクンタラー』) などが活躍
- ・ 中国僧 [ ] は『仏国記』に都市生活をえがく

[ ]

- ・ アーリヤ人の特権的宗教から脱皮
- ・ 最高神の [ ] (創造・破壊の神)・[ ] (世界維持の神) が家や村々の神と結びつく
- ・ 社会生活の規範として『[ ]』を編集

學術

- ・ [ ] (5 世紀~)  
総合的な [ ] として留学生が集まる
- ・ 自然科学が発達  
[ ] の概念や十進法
- ・ 諸学の共通語としてサンスクリット語が使われる

[ ]

- ・ グプタ様式

→敦煌や法隆寺などの仏教画に影響

### ③ ヒンドゥー諸王朝の分立 [p. 43]

**ヴァルダナ朝** (7世紀前半)

- ・ [ ] が北インド統一
- ・ ヒンドゥー教, [ ] を保護
- 唐僧 [ ] がおとずれる

**ヴァルダナ朝崩壊後**

- ・ 北インド
  - クシャトリヤの子孫 [ ] (王子)を自称する小王国が群雄割拠
- ・ 小王国の戦乱つづく
  - 交易・都市の衰退
  - 都市の商人に基盤をおく仏教が衰退
  - 地域社会にヒンドゥー文化が浸透
- ・ 各地で地域言語(ベンガル語・ヒンディー語など)や文化が発達

### ④ カースト制度の社会 [p. 44]

**[ ] (ジャーティ)**

- ・ グプタ朝以降, ヴァルナ制度の枠内で, 職業を同じくする集団が細分化したもの
- ・ 固有の [ ]
- ・ それぞれの [ ] を守る
- ・ カースト集団どうしは [ ]

↓

カーストとヴァルナはインド社会を統合するヨコとタテの糸